

和歌山弁が通用する町

三崎 哲男

早いもので、BC州リッチモンド市との姉妹都市提携も十周年に達した。この四月十五日には、ブレア市長一行十名が、姉妹都市提携十周年記念と昨秋の宇治田和歌山市長を団長としたり市訪問への答礼を含めて来和。市民の大歓迎のなか、記念植樹や公式行事を滞りなく終え、十年の友好交流を積みあげて来た歴史の重み強く感じさせた。

リ市は、和歌山（日高アメリカ村）の移民を百年も前から受け入れた遠くて近い仲だった。リ市には日系人が三千五百人位おり、市の総人口約十万人から見ると非常に多い。同市ステイブストンには、日系人の街もあり、立派なお寺、武道館、ジャパセンターをもっている。

今でも和歌山弁が通用する懐しいところでもある。カナダで初めて日本語の勉強

を学校に取り入れ、先般NHKテレビで報道された。

移民当初は殆んどが漁業一本であったが、二世三世の今日は公職、医者、会社

経営と各界にも広く進出し、真面目で尊敬されるカナダ人としてがんばっている。市議会議員の熊谷さん、リ市姉妹都市協会副会長のジミー小嶋さん、まつたけ博士の坂本さん、と多士彩々……われわれにとってもほんとうに嬉しいことである。その影響か、日本の演歌も大人気。われわれとのパーティーでも歌合戦にやんの拍手が起る。リ市姉妹都市協会前会長のグッドウィンさんは、「カラスなぜ鳴くの……」と明快な日本語で立派に歌ってくれる。パーティーのラストは必ず紀州おどり。ブンガラ節のメロディにのって、日加全員ウチワを片手に輪になって、「ツレモツテ コイコイ」と舞い踊り、溢れる友情と感謝に和気あいあいのなか、再会を約して幕をとじる。

姉妹都市提携十年。その実績は年々盛々濃く、輝やかしい。リッチモンド市から和歌山市への来訪は、約五百人。和歌山市からリ市への訪問は、千人をこす。

昭和五十六年四月には、和歌山市立城東中学とリ市ロンドン中学が姉妹校となった。さらに日加両市の青少年が積極的に文化、スポーツを通じて交流しているし、ホームステイも活発である。はじめは白人を泊めることに抵抗があり、受入れ家

庭を探すのに苦労したが、役員の努力と市民の理解で、今ではいつでも喜んで応じてくれる家庭が百に上っている。この前は、ロンドン中学から来た一行の中に、全首の少女ジェニー・エマリーさん（十四歳）がいた。彼女は和歌山市での印象をこう話している。

「和歌山市の人々は、とても親切で私も自然にうちとけることが出来ました。楽しい和歌山の日々は一生忘れません。特に市内の横断歩道に設置されている盲人用信号機の音楽が、大変印象に残っています。みんなに遅れることなく歩き出せますし、それに信号機ごとに曲が違うのでとても楽しい。こんな素敵な設備はまだカナダにありません。」

和歌山市は市長が全国空手剛柔流連盟会長をつとめるほど空手が盛んだが、リ市にも空手師範を送り、大変なブームを



和歌山市加太ビーチでスイカ割りを楽しむリッチモンドの人々

巻き起こしている。青い目の黒帯が、どんどんふえているということだ。

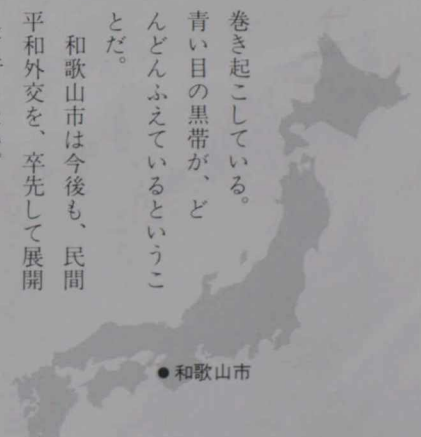
和歌山市は今後も、民間平和外交を、率先して展開して行きたい。

（和歌山国際姉妹都市親善協会）

リッチモンド市は、バンクーバーのすぐ南、フレージャー川の河口に浮かぶ二つの大きな島といくつかの小島から成る、バンクーバーの近郊都市である。一番大きいルル島はバンクーバーと二本の橋で結ばれ、またシー・アイランドにはバンクーバー国際空港があつて、カナダの空の西玄関口となっている。

気候が温暖なうえ、三角洲から成っているために土地が肥沃で、農業（特に園芸）に適している。林産加工業や鉱業も盛ん。しかし最も知られているのは漁業だ。特にルル島の西南端ステイブストンは、昔から日系人による漁業で栄えてきた。

和歌山市が一九七一年に姉妹提携をしたのも、リッチモンドに同県出身（特に御坊市美浜町）の移住者が多かったことが大きな契機となった。両市とも大都市（和歌山市の場合は大阪）を近くに控え、発展の可能性や問題点が似ていること、も主な理由である。



●和歌山市